

<タイトル>

肉類ジペプチドに脳老化に対する予防作用があることを発見
ー鶏肉摂取を介した認知症予防の取り組みに道を拓くー

<当該研究成果のポイント>

鶏肉に多く含まれる成分であるイミダゾールジペプチドに、中高年者の認知機能ならびに神経心理機能を改善する効果があることを発見した。試験では同成分を摂取した中高年者で脳の萎縮が抑えられ、記憶機能が改善されるとともに神経の働きが穏やかになる傾向が見られた。中高年者において鶏肉を適切に摂取することが、認知症やうつ予防につながると期待される。

本研究は、農林水産省農業・食品産業科学技術研究推進事業「鶏肉に含まれる高機能ジペプチドを用いた中高齢者の心身健康維持に関する研究」により実施された。

<期待される効果・今後の展開など>

鶏肉に多く含まれるイミダゾールジペプチドに脳老化に対する予防効果があることが認められた。脳老化の抑制は、認知症の発症予防や進行防止とも深い関係にあるため、鶏肉に由来するイミダゾールジペプチドを含む高機能食品は、将来、脳老化を防ぎ、認知症を予防する食品として認知されることが期待される。

<研究所名>

国立大学法人東京大学、国立大学法人九州大学、(独) 国立精神・神経医療研究センター、日本ハム株式会社

<担当者名>

国立大学法人東京大学	大学院新領域創成科学研究科	准教授	久恒 辰博
国立大学法人東京大学	大学院農学生命科学研究科	准教授	戸塚 護
国立大学法人九州大学	大学院農学研究院	准教授	片倉 喜範
(独) 国立精神・神経医療研究センター	脳病態統合イメージングセンター	センター長	松田 博史
	脳病態統合イメージングセンター	室長	今林 悦子
日本ハム株式会社	中央研究所	所長	森松 文毅
	中央研究所	主任研究員	松本 貴之
	中央研究所	研究員	佐藤 三佳子

<連絡先>

国立大学法人東京大学 大学院新領域創成科学研究科